

〈 改善報告書検討結果（関東学院大学） 〉

[1] 概評

2006（平成18）年度の本協会による相互評価に際し、問題点の指摘に関する助言として17項目の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に現れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育内容・方法については、工学研究科における社会人受け入れへの特別な対応が、組織的な改善にまでいたっていないので、さらなる努力が望まれる。また、学生による授業評価アンケートの活用については、全学部において一定の改善が見られるものの、組織的なシステム作りが望まれるほか、文学部においては、結果の公表が不十分であるので、今後も改善の努力を続けることが望まれる。さらに、工学研究科のシラバスは、改善されつつあるものの、授業計画や成績評価の方法・基準について記載不備の科目が、なお一定数見受けられるので、引き続き改善の努力が望まれる。全研究科における国際的な教育研究交流の取り組みについても、一定の前進が見られるものの、規程の整備を含め、十分な成果があがっていないので、一層の努力が望まれる。

教員組織については、61歳以上の専任教員の占める割合が工学部において30.5%と改善が見られるものの、文学部では37.8%、人間環境学部では42.6%と依然高い。若手教員を採用するなどの努力もなされているので、今後とも是正に向けた人事計画を着実に進めることが期待される。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上